

「信仰と召命」シンポジウムまとめ

2013年10月5日
14:00-17:00
カトリック麹町聖イグナチオ教会
ヨゼフホール

参加者：48名＋召命チームメンバー

パネラーの発表内容

マタタ師（淳心会）

- ・召命は家庭から生まれる。家庭に於ける信仰的雰囲気と信仰教育
- ・召命は司祭たちの関わりから生まれる。司祭たちが家族に親しく関わり、側にいること。
- ・召命は「神の言葉」との出会いから生まれる。
- ・召命は教会と神学院での学び、生活の中で、次第に深められ、強められていく。
- ・召命の妨げは分裂・教会内の分裂・家庭の分裂・愛と平和、一致が召命を活気づける。

Sr.熊本幸子（サレジアンシスターズ）

- ・召命はミッションスクールでの学びから
- ・人生は自分の思った通りは行かない。
- ・人生設計・夢を膨らませる・結婚、仕事の充実など・どうしても「空しさ」が残る
- ・召命は人生設計について、イエスに相談する（祈り）・心が生き生きしていた。
- ・召命はイエスとの語らいの中で、次第に中で芽生え、強められた。
 - ・神からの愛に包まれ、人生の空しさが消え、力が湧いてくる。
 - ・イエスとの対話の中で神の恵みの偉大さ、力強さを感じとった。
- ・人生は迷い、失望の連続・自分では無理・しかし主は必ず助けて下さる・必ず・確信である。

大西徳明神学生（パウロ会）

- ・人間は苦の連続・人間関係は難しいもの・頼る存在として神がある
- ・自分の信仰・召命を構築する3つの土台
 - ① 信心・たとえばロザリオ・幼子イエスの眼差し・自分が問われる
 - ② 聖書・種々の困難その向こうに神はいてくださることが分かる。
 - 神による創造・全ては「よい」・人の場合・何かが足りない・伴侶を与える
 - 神は人に必要なものを準備し与える
 - ③ 典礼・共同体としての祈り・共に歩むことを教える・神が共にいることを感じとらせる。

碓井明子（コングレガション・ド・ノートルダム）

- ・思春期時代・神から離れる・孤独、底なしの闇、おそれ、不安、閉塞感を味わう・
 - ・この世のもので心の隙間を埋めようとした・自分は何者か？
 - ・どうしても埋まらない孤独、閉塞感が神との出会いで、開けた。神は共に居た。
 - ・神との関わりが回復すると心の安定を回復できた。
- ・召命は与えられ、人はそれに応える者
 - ・神は人共にいつもいる・人は気づかない
 - ・神へ戻る・信仰によって・信仰が機能すると、神へと回帰する。
- ・召命は神との関わり方の行為によって深められる
 - ・祈り、念誦、ミサ、霊的読書、
 - ・諸秘跡によって・洗礼の秘跡、聖体の秘跡、赦しの秘跡などに生きること
- ・召命の道を歩むことは、種々の困難さを生きること
 - ・共同体生活の難しさ・共同体生活における躓き・人間関係の難しさ・分裂の痛み
 - ・ありのままを受け入れていく・神に信頼しながら

総評・以上のことを通して、以下のことが明確になりました。

①召命が何処に生まれるかが明らかにされました。

- ・家庭、教会、ミッションスクールなど

②召命は「神の恵み」の体験によって生まれる

- ・司祭、修道者の後ろ姿を見て…その魅力に惹かれて
- ・人生の設計の中で…神に相談する（祈る）中で…
- ・豊かさ、平和、自由の中で、「空しさ」「孤独」「不安」「怖れ」などを機会として神の恵みの働きを実感し、神へと呼び戻される。
- ・苦難、悲しみ、怖れなどに圧倒される人の側に、内に主は常におられる。

③神の恵みに気づくために「同伴者」が重要な働きをする。

- ・近すぎず、遠すぎずの距離を保ちながら
- ・相談者に安心を与える、堅固な信仰と愛に溢れる柔和な存在であることは望ましい。

④神の恵みに近づく（召命を堅固にする）種々の方法

- ・み言葉…み言葉は人を召命へと動かす力がある…
- ・典礼…諸秘跡…特にミサ、赦しの秘跡など
- ・信心…祈り、念祷、聖体訪問、ロザリオなど
- ・愛の実践…愛することの難しさを知る…赦すことの難しさ
愛されていることに気づかせる
愛する事ができるようになる…

参加者たちの意見

- ・召命活動が、信徒の召命の活性化に繋がることを希望する
- ・司祭、修道者の召命がより一層、活発になるように、祈り、協力するべき。
- ・「信仰と召命」についての、シンポジウムが毎年なされるとよい。